

令和元年度「障害者対策総合研究開発事業」事後評価について

1. 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

2. 事後評価委員会

開催日：令和元年11月18日、12月3日、9日

3. 評価委員一覧（◎ 委員長）

(1) 身体・知的等障害分野

氏名	所属・職名
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授
水間 正澄	医療法人社団輝生会 理事長
◎ 五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
今橋 久美子	国立障害者リハビリテーションセンター 脳機能系障害研究部 研究員
大串 幹	兵庫県立リハビリテーション中央病院 診療部 診療部長 兼リハビリテーション科部長
尾島 俊之	浜松医科大学 医学部健康社会医学講座 教授
神宮司 誠也	九州労災病院 副院長
本橋 裕子	国立精神・神経医療研究センター病院第一小児神経科 医長
藤谷 順子	国立国際医療研究センター リハビリテーション科 医長
山内 繁	支援技術開発機構 理事長
田中 栄	東京大学 大学院医学系研究科 整形外科学 教授

(2) 感覚器障害分野

氏名	所属・職名
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授
石川 浩太郎	国立障害者リハビリテーションセンター 耳鼻咽喉科医長
加藤 聡	東京大学医学部眼科 准教授
飯野 ゆき子	東京北医療センター 耳鼻咽喉科 科長 兼 顧問
伊藤 壽一	滋賀県立成人病センター研究所 所長
◎ 尾島 俊之	浜松医科大学 健康社会医学 教授
小林 一女	昭和大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座 教授
永井 春彦	勤医協札幌病院 眼科副科長
福島 邦博	新倉敷耳鼻咽喉科クリニック 院長

(3)精神障害分野

氏名	所属・職名
樋口 輝彦	日本うつ病センター 理事長
池淵 恵美	帝京平成大学 大学院臨床心理学研究科 教授
岩田 仲生	藤田保健衛生大学精神神経科学講座 教授
大野 裕	認知行動療法研修開発センター 理事長
川上 憲人	東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野 教授
◎ 小山 司	大谷地病院臨床研究センター センター長
武田 雅俊	大阪河崎リハビリテーション大学認知予備力研究センター 研究センター長
中村 純	北九州病院 北九州古賀病院 院長
和田 清	埼玉県立精神医療センター 依存症治療研究部長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 講師
加藤 進昌	昭和大学 発達障害医療研究所 所長
加藤 忠史	国立研究開発法人理化学研究所 脳神経科学研究センター チームリーダー

4. 評価結果

(1)身体・知的等障害分野

代表者	所属	研究開発課題名
緒方 徹	国立障害者リハビリテーションセンター	機能不全を考慮した温熱生理モデルにもとづく 体温調節支援システムのユーザー指向型開発
小倉 加恵子	国立成育医療研究センター病院	障害児家族の適切な親子分離をはかり親子それぞれの社会的自立を促すための支援パッケージ開発に関する研究
三原 雅史	川崎医科大学	脳卒中患者の歩行障害改善に寄与する NIRS ニューロリハシステムの研究開発
井上 雅彦	鳥取大学	強度行動障害者への支援におけるセンシング 技術を用いた評価システムの開発

(2) 感覚器障害分野

代表者	所属	研究開発課題名
内田 育恵	愛知医科大学	プロダクティブ・エイジング(生産的高齢化)社会の実現に向けた難聴者への補聴介入ー遂行機能と社会活動性に注目した検討
平塚 義宗	順天堂大学	スマートサイトによるロービジョンケア連携システム構築に関する研究
仲泊 聡	理化学研究所	ICT を活用した寡少専門家による地域・在宅ロービジョンケア
大森 孝一	京都大学	エビデンスに基づいた病態特化型嚙下訓練プログラムの開発
近藤 寛之	産業医科大学	視覚障害者の就労実態を反映した医療・産業・福祉連携による支援マニュアルの開発
香取 幸夫	東北大学	嚙下障害に対する包括的嚙下障害基礎訓練法の開発と有効性の検討
氷見 徹夫	札幌医科大学	人工内耳装用者の支援センター機能のモデル化事業と発達段階別 PDCA サイクル基本型の構築
鈴鴨 よしみ	東北大学	多職種協働による地域包括ロービジョンケアシステム開発に関する研究

(3) 精神障害分野

代表者	所属	研究開発課題名
水野 雅文	東邦大学	児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究
寺田 清人	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	てんかんの多層的多重的医療連携体制の確立に関する研究
杠 岳文	国立病院機構肥前精神医療センター	アルコール依存症予防のための簡易介入プログラム開発と効果評価に関する研究
加藤 隆弘	九州大学	社会的ひきこもりの長期化打開のためのエビデンスに基づく家族向け教育支援モデルの構築
池田 和隆	東京都医学総合研究所	依存症患者における薬物療法の効果検討とfMRIを基点としたバイオマーカーの開発
佐藤 さやか	国立精神・神経医療研究センター	オリジナルソフトによる認知機能リハビリテーションと援助付き雇用を組み合わせた精神障害者の就労や職場定着支援の効果検証と普及方法の開発
安藤 哲也	国立精神・神経医療研究センター	摂食障害の治療支援ネットワークの指針と簡易治療プログラムの開発

5. 評価項目

- ① 研究開発達成状況
- ② 研究開発成果
- ③ 実施体制
- ④ 今後の見通し
- ⑤ 事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥ 総合評価

6. 総評

本研究事業では、4つの分野(身体・知的等障害、神経・筋疾患、感覚器障害、精神障害)において、①障害者の地域社会での共生の実現や社会的障壁の除去につながる技術開発等の研究、②障害を招く疾患等についての病因・病態の解明、予防、診断、治療法、リハビリテーション法等の先進的・実践的な研究、を推進します。

今回の事後評価対象となった3分野 19 課題の評価結果については、「計画を超えて大変進捗」と評価された課題は1課題、「計画を超えて進捗」と評価された課題は6課題、「計画どおりに進捗」と評価された課題は9課題、「計画通りに進捗していない部分があるが、概ね計画どおりに進捗」と評価された課題は3課題となりました。

(以上)